

世羅町林道施設長寿命化計画
(個別施設計画)

平成 31 年 3 月

世 羅 町

1. 基本的事項

世羅町における林道施設（橋梁）は、高度成長期後半から平成初期に建設されたものが多く、完成後の時間の経過とともに老朽化が進行し、修繕・更新すべき時期を迎える施設が相当数存在する。

また、林道施設以外の農業・土木施設も多く存在することから、今後、老朽化施設の急激な増加により、これらの施設の補修・更新等に要する費用の増大や集中が懸念される。

このため、損傷が軽微または出現しない段階において、予防的な維持・修繕を実施するとともに、必要に応じて大規模な改修、架け替えを実施するなどの取組を進める。

そのためには、橋梁毎の個別施設計画を策定し、これに基づく取り組みを計画的に実施することが重要であり、個別施設計画を策定し、対象施設、スケジュール、費用等を明確にすることで、財政負担の低減と平準化を図りながら、持続可能なメンテナンスサイクルの構築を図る。

2. 対象施設

本計画の対象とする施設（橋梁）は、別紙のとおりである。

橋梁（4 m以上 15m未満）	2 橋
橋梁（15m以上）	－ 橋
計	2 橋

3. 計画期間

本計画における施設毎の計画期間は、別紙のとおりである。

4. 施設の優先度

本計画における施設毎の優先度は、別紙のとおりである。

5. 施設の状態等

本計画の策定に当たって実施した点検・診断により把握された（または本計画の策定時点で把握されている）施設毎の状態については、別紙のとおりである。

なお、点検・診断が未実施の施設については、点検実施予定時期を記載している。

6. 対策内容と実施時期

上記「施設の優先度」及び「施設の状態等」を踏まえ、施設毎に講じる対策の内容及び実施時期について、別紙のとおり計画する。

7. 対策費用

個別施設毎の対策費用の概算については、別紙のとおりである。

なお、この金額は計画策定時点における概算であり、具体の工事発注時における詳細な設計や社会情勢の変化等により、金額に変動が生じる場合がある。

8. その他

(林道施設の長寿命化対策に関して参考とすべき基準等)

国	インフラ長寿命化基本計画（平成 25 年 11 月・インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議）
	林野庁インフラ長寿命化計画（行動計画）（平成 26 年 8 月 19 日・林野庁）
	林道施設長寿命化対策マニュアル（暫定版）（平成 27 年 3 月 27 日・林野庁整備課課長補佐）
	林道施設に係る個別施設計画策定のためのガイドラインの策定について（平成 27 年 3 月 27 日・林野庁整備課課長補佐）
県	広島県公共施設等マネジメント方針（平成 26 年 12 月・広島県）
	広島県インフラ老朽化対策の中長期的な枠組み（平成 26 年 9 月・広島県土木局）
	広島県橋梁長寿命化修繕計画（平成 23 年 5 月・広島県土木局道路整備課）
	広島県≪道路事業≫橋梁修繕方針・トンネル修繕方針・舗装修繕方針（平成 26 年 8 月・広島県土木局）
町	世羅町公共施設長寿命化計画

林道施設個別施設計画(橋梁)

策定年月日: H31.3.10

個別施設整理番号	1	林道台帳整理番号	6213	施設管理者	世羅町
路線名	飛谷線			林道種類及び区分	自動車道2級
橋梁名	飛谷橋			建設年度	S44
施設の所在地	世羅町山中福田			起点からの距離	0.1km
供用年数	49	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	普通河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.4m (4.4 m)	
		幅員(車道幅員)	4.7m (4.1 m)	
	施設の構造等	上部工型式	RC床版橋	
			鋼製(使用鋼材)	無
			支承型式	ゴム支承
			塗装使用の有無	無
		落橋防止の有無	無	
		下部工型式	橋台工型式	重力式
			橋脚工型式	無
	基礎型式		直接基礎	
海岸からの距離	-			
施設の目的 利用実態等	当該林道の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在しており、伐採木の搬出等に利用されている。			

施設の 状態等 の概要	点検診断日	H30	平成30年9月5日
	調査結果	床版に剥離が確認された。 橋台胸壁にうきが確認された。 橋台堅壁に剥離が確認された。 状況に応じて断面修復が必要。	
	健全性の 診断結果	II (予防保全段階)	構造物の機能に支障が生じてないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
	劣化原因	②アルカリ骨材反応⑥経年劣化	

長寿 命化 計画 の 内容	計画期間	H31 年度 ~ R5 年度	
	内容	①断面修復	
	実施予定時期	大きな損傷はないため定期点検を実施し経過を確認する。	
	施設の優先度	低	(優先度の考え方) 大きな損傷はないため優先度は低とした。
	対策費用 (概算)	①断面修復	
管理方法			

年度	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	備考
対策費用(千円)					200					200	※計画期間初年度からの10ヶ年計画
対策の内容					定期点検					定期点検	

備考	
----	--

林道施設個別施設計画(橋梁)

策定年月日: H31.3.10

個別施設整理番号	2	林道台帳整理番号	5183	施設管理者	世羅町
路線名	信山線			林道種類及び区分	自動車道2級
橋梁名	信山橋			建設年度	S42
施設の所在地	世羅町伊尾			起点からの距離	0.1km
供用年数	51	種別	コンクリート橋	型式	コンクリート橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	2等橋(14t)	橋下条件	普通河川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5m (7.5 m)			
		幅員(車道幅員)	4.3m (3.6 m)			
	施設の構造等	上部工型式	RCT桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	無		
			支承型式	鋼板支承		
			塗装使用の有無	無		
		落橋防止の有無	無			
		下部工型式	橋台工型式	重力式		
			橋脚工型式	無		
	基礎型式		直接基礎			
海岸からの距離	-					
施設の目的利用実態等	当該林道の利用区域には、早期に整備すべき森林が多く存在しており、伐採木の搬出等に利用されている。また、災害時の迂回路や近隣地域を結ぶ生活道として地域住民の利用もみられる。					

施設の状態等の概要	点検診断日	H30	平成30年9月5日		
	調査結果	床版に鉄筋露出が確認された。 支承(鋼板)に腐食が確認された。 今後損傷範囲が拡大する可能性があるため、早期に断面修復、再塗装の補修を行う必要がある。			
	健全性の診断結果	III (早期措置段階)	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態		
	劣化原因	②アルカリ骨材反応⑤鋼材の腐食劣化⑥経年劣化			

長寿命化計画の内容	計画期間	H31年度 ~ R5年度			
	内容	①断面修復②再塗装			
	実施予定時期	早期に対策を実施することが望ましいが他橋梁との優先度を考慮して令和4年度に実施する。			
	施設の優先度	中	(優先度の考え方) 林道先に人家があるため優先度は中とした。		
	対策費用(概算)	①断面修復②再塗装 3,000千円			
管理方法					

年度	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	備考
対策費用(千円)				3,000	200					200	※計画期間初年度からの10ヶ年計画
対策の内容				断面修復 再塗装	定期点検					定期点検	

備考	
----	--